

# 故郷のひとときを味わう

深浦会東京  
(6月30日)

首都圏で暮らしている深浦町出身者が集い、親睦を深める深浦会東京総会・交流会が、品川区総合区民会館「きゅりあん」で行われ、約210人がふるさとへの思い出を語り合いました。

交流会では、久六島産サザエやあんこうのとも和え、山菜や刺身といった郷土料理がテーブルに並び、参加者はふるさとの味に舌鼓を打っていました。さらに今年は、来年度の本格的な出荷を目指している深浦サーモンも提供し、参加者たちは「とてもおいしい」と何度も口に運んでいました。北金ヶ沢出身の小野弘次さんは「東京に来て50年になるが、今回が初めての参加。焼きイカがとても美味しくて、懐かしかったです」と、嬉しそうに話してくれました。

また、交流会のイベントである抽選会では、久六島産サザエ・アワビセツトや深浦牛などの豪華景品が並び、参加者は番号が発表されるたびに歓声を上げていました。地元の宿泊施設のペア宿泊券を見事に当てた岡町出身の島元克さんは、誰と行くのかと問われて「ぜひ弟と行きたい」と、照れながらも故郷を思う兄弟の絆が感じられました。

来年の開催は6月8日。深浦会東京事務局は、さらに交流を深めるため、首都圏在住者の会員に参加を呼びかけることとしています。



故郷の素晴らしさを孫たちにも



郷土料理を味わいました



最後は「ふるさと」を合唱



厨房も和気あいあいでした

## 町長とのわいわい談義開催

深浦会東京総会・交流会と併催した「わいわい談義」は、普段町づくりグループミーティングとして町内で実施している座談会。今回は、関東地区に在住する深浦町出身者の方々が集まり、故郷を離れてから思うことを談義しました。

参加者は、現在の仕事や生活の中で感じる「深浦町」に対する考えを発言し、幅広い話題の話し合いが持たれました。

その中で最も多かったのが交通事情。「帰省で深浦に行くまでの手段や時間の改善ができないか」と意見が寄せられました。吉田町長は「町単独で解決できる問題ではないが、せめて、町内の公共交通の充実を図っていきたい」と回答しました。

また、産業・観光については、五能線は都内でも認知度が高く、乗ってみたいという方がたくさんいるという事、さらに「つるつるわかめ」や「えごてん」はとても人気があるという事で、町外から見た深浦町の良いところ、直してほしいところが明確に表れた座談会となりました。

今後このようなグループミーティングを開催して、皆さんからの意見を参考に、よりよい町づくりを目指します。今回参加された11人の皆さん、貴重なご意見をありがとうございました。

